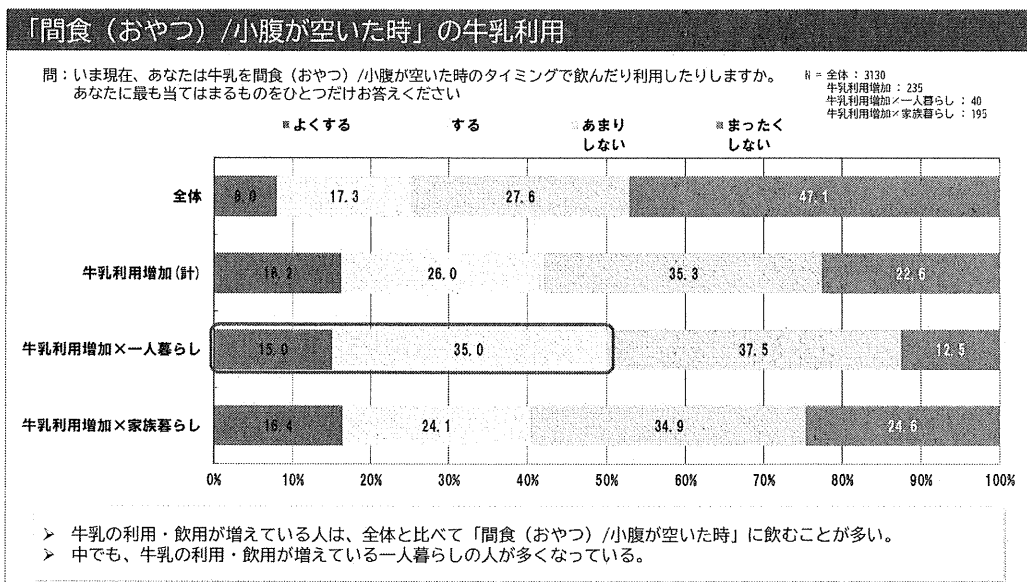


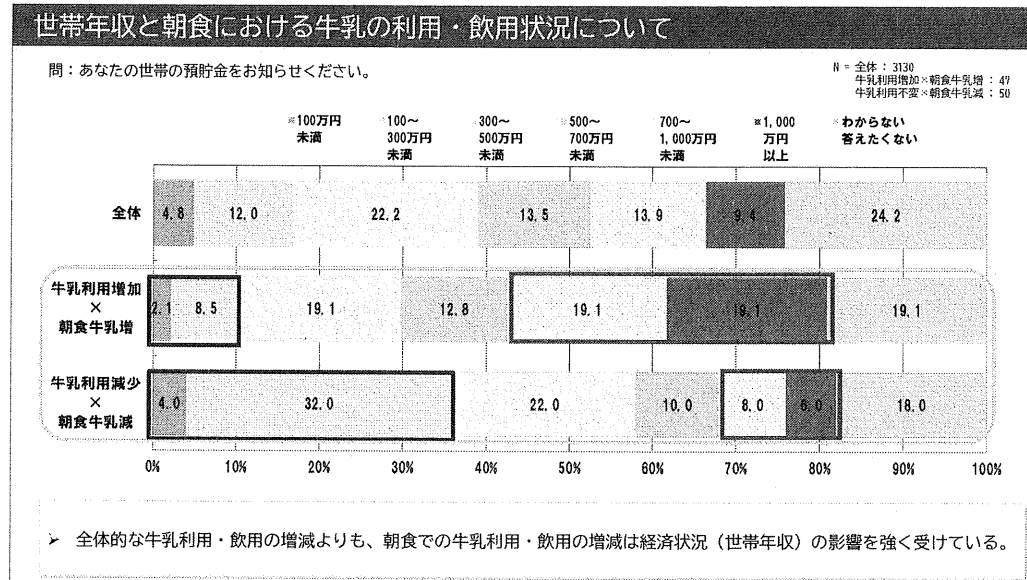


◎ 一人暮らしの人は間食や小腹空いた時に牛乳
Jミルクは15日までに、2024年度の「牛乳乳製品に
関する食生活動向調査」第2次調査の結果を公表した。牛
乳の利用状況を聞いたところ、一人暮らしの人は「間食や
小腹が空いた時」の利用が多い様子がうかがえる結果とな
った。

調査は12年から毎年実施している。今回は15～60歳の
男女600人を対象に、昨年12月27～29日にインターネ
ット上でアンケート調査を行った。

「間食（おやつ）/小腹がすいた時の牛乳利用」について聞いたところ、「よくする」「する」と回答した人は全体で25・3%だったのに対し、牛乳利用が増加した一人暮らしの人は50・0%と過半数に達していた。Jミルクは「朝食に次ぐ牛乳の利用機会として注目していくべき」としている。

牛乳利用が増加した人のうち、「食事代わり」として利用することがどれくらいあるかを尋ねた質問では、一人暮らしの



人は「まったくくない」が27・5%で、家族暮らしの人の51・3%より大幅に少なかった。一方で「よくある」「ある」も計12・5%（家族暮らしは計16・4%）と多いわけでもなく、「あまりない」が60・0%を占めた（同32・3%）。食事代わりに牛乳を飲むことについて、Jミルクは「生活苦だけではなく、忙しくて食事の時間を十分に取れないとき、突発的に食事の代わりとして牛乳を利用しているのではないか」と考察している。

世帯年収と牛乳の利用・飲用状況の関係については、利用・飲用が「増加した人」「減少した人」とも300万円未満が多かった。700万円以上になると「減少した」と答える人が少なくなる傾向がみられた。

利用・飲用状況を朝食に限って見た場合は世帯年収の影響がより強く表れており、預貯金の少ない人ほど朝食での利用・飲用が減少していた。Jミルクは「朝食時の牛乳利用の増減と世帯の経済状況との間には関係があるかもしれない」とコメントしている。